

エッセイ 楽しい“虫音楽”の世界 (その12 昆虫の教育音楽)

昆虫芸術研究家

柏田 雄三 (かしわだ ゆうぞう)

ある文房具メーカーが学習帳の表紙に昆虫の写真を載せるのを止め話題になったことがある。子供の親ばかりでなく教師からも気持ち悪いとの声が数多く寄せられたためなのだという。一方で自然観察会に出かけてみると虫を見たり手に取ったりしてはしゃいでいる親子連れがたくさんいるのは嬉しい。

昆虫の題名の曲や可愛く表現した曲は童謡を中心にして少なくないが、科学的な側面を加えた子供向けの曲となるとどうだろうか。そのような曲を探して何枚かの海外のCDに出会えた。「SONGS ABOUT INSECTS, BUGS & SQUIGGLY THINGS」というアルバムはく虫が好き！<オオカバマダラ><バッタ><巣の中のハチ><カマキリ><蟻の行列>等虫の生態を楽しく歌った14の小曲からなる。<オオカバマダラ>は「トウワタに産まれた卵からふ化した幼虫が葉っぱを食べながら脱皮を重ねて蛹になり、濡れて縮こまった翅を伸ばして成虫になること、<巣の中のハチ>は「ハチには働き蜂とオスのハチと一頭の女王蜂がいて、働き蜂がもっぱら働き、オスは生殖、女王は産卵が役割であること、巣の中で子育てをし、翅を動かして巣の中の温度を下げる」ことを歌う。KIMBO EDUCATIONALという会社名からも教育用の音楽だと知れる。

「Insects and spiders」というアルバムは可愛い女の子が虫眼鏡で虫の観察をしているジャケットで、「草競馬」や「幸せなら手をたたこう」などのメロディに乗せて昆虫の体の構造や昆虫とクモの違い等が歌われる。4～9歳用で、「SCIENCE SIRIES: MUSIC MAKES LEARNING FUN!」と表記されている。

同じような発想で作られた日本の曲を探していて「蟲けら」という4人のグループが演奏する<昆虫音頭>を見つけた。モンシロチョウ、カブトムシ、ツクツクホウシ、ウマオイ、オオカマキリ、エンマコオロギの順でユーマラスに歌われる。

一番の歌詞を見てみよう。

へヒラ〜リヒラヒラモンシロチョウ
キャベツ畑で目を覚まし〜
紋付き袴で決め込んで〜
風の吹くまま旅に出る〜
ヒラ〜リヒラヒラモンシロチョウ
春を運ぶ〜

新たに発売されたDVDやインターネットで観るとグループの4人がモンシロチョウ、カブトムシ、ミノムシ、カマキリに扮し歌いながら踊るのが楽しい。

昔昆虫採集をした雑木林や原っぱや池等が姿を消したばかりか、社会の変化により子供たちが昆虫と出会う機会は減ってしまった。しかし「昆虫少年」は世界的にほとんど日本だけの存在で、昆虫に触れる機会が減った今でも日本の子供には虫好きの血が流れていると梅谷献二氏は著書「虫けら賛歌」の中で指摘している。

「蟲けら」は自分たちの活動について次のように記している。「我々の生活に於いて、ややもすれば嫌われ者とされている昆虫たち。しかし、地球上もっとも繁栄し、多種多様な進化を遂げている彼らは、人類をはるかに凌駕する“成功者”だと言える。そんな彼らへのリスペクトを礎とし、この多忙な現代社会の中で失われつつある、“自然の美を愛でる心”を昆虫を通して再興していければ……」。同感である。



蟲けら <昆虫音頭> DVD & CD セット